

## 国際歴史論戦研究所 (iRICH) の活動実績<sup>1</sup>

2018年 (2018年5月～)

- (・アメリカ、国連人権理事会からの脱退を表明、6/19)
  - (;ただし、米国は、国際人権条約に基づく諸々の委員会とUPRには、引き続き参加している。)
  - (;UPRへの参加は、米国としては、UPRをUNHRCとは認識していないためとのこと。UPR、UNHRCの目玉の枠組みであり、UNHRCの一部であるが、米国ならではの手前勝手な解釈をしている)
  
- ・国連人種差別撤廃委員会 (CERD) 日本審査 (8/14～8/17)、於・パレ・ウィルソン
  - ;山下、山本、藤木が参加
  - ;2つのNGO報告書をCERDに提出
    - －JNCRD<sup>2</sup>の包括的な合同報告書 (7つのテーマ)、76 pages
    - －AACGCJ<sup>3</sup>の日本の人種差別撤廃提案100周年に関する報告書、7 pages
  - ;CERD委員とNGOとの会合における当方のスピーチ
    - －8/14、「NGOとのインフォーマル会合」(100名程度出参加)
      - \*山下=日本の人種差別撤廃提案100周年に関するスピーチ (約5分)
    - －8/16、「昼食時のNGOによるブリーフィング」(20名程度参加)
      - \*山下=日本の人種差別撤廃提案100周年に関するスピーチ (7～8分)
        - ➡ GHQ史観を完全に覆すような内容
      - \*山本=慰安婦問題とヘイト・スピーチについて (約5分)
      - \*藤木=ヘイト・スピーチと朝鮮学校の無償化について (7～8分)
  - \*8/16の午後、CERD対日審査に関する日本政府代表団長の外務省総合外交政策局の大鷹正人審議官も、「99年前に、国際社会が、日本政府のイニシアティブとともに、パリ講和会議で人種差別の問題に取り組む最初のステップを取った」という表現で、日本の人種差別撤廃100周年に明確に言及
  - ;CERDが左派のNGOとだけの秘密会合(8/16朝)を開催したことに対する抗議文(山下)、9/11

<sup>1</sup> 国際歴史論戦研究所は、2018年11月1日に発足いたしましたが、ここでは、その前身である慰安婦の真実国民運動(ATCW)の国際委員会(2018年5月～10月)時代の活動から今日までをご紹介します。

<sup>2</sup> JNCRD=「人種差別に反対する日本連合」(21団体)

<sup>3</sup> AACGCJ=「不当な日本批判を正す学者の会」(代表=田中英道、理事・事務局長=山下英次)。2017年5月に発足し、iRICHとは、密接な協力関係を保っている。

- －宛先=CERD 委員長、日本審査の主査、同副査
  - －715 words
- ； CERD に対する公開抗議文(山下)、10/8、2,100 words
  - －宛先=ヌールディン・アミール CERD 委員長
  - －日本審査に関する CERD 総括所見 (9/26 付け) の内容が、日本政府やわれわれの主張をほとんど無視したものであったため、嚴重に抗議
  - －NGO 報告書は、合計 12 本が提出されたが、うち 5 本は、われわれ保守側のものであったが、われわれの主張を全く無視
  - －日本政府の主張も、ほとんど反映されていない
  - －CERD 委員会の極端に偏った人員構成
    - ∴ ゲイ・マックドワーガルと鄭<sup>チョン</sup>鎮星<sup>ジンソン</sup>(元・艇対協共同代表)が入っている
  - －10/15、われわれの抗議文の前文が、*Japan Forward* に掲載される
- ・ 参議院議員会館で集会 (CERD 派遣の帰国報告)、10/9、第 101 会議室
- ・ 国連強制疾走委員会 (CED) 日本審査、11/5 ~ 11/6、於・パレ・ウィルソン
  - ； 11/5 のみ、山下が参加、CED 委員と NGO との会合はナシ
  - ； 11/5 の会議は、極めて平穏だったが、11/6 は、一転して厳しい内容になった模様で、慰安婦の子供が連れ去られた可能性があるとして、日本政府に、その資料の開示と責任者の処罰を求めると言った途方もない内容が議論された
- ・ 国連 UPR (普遍的・定期的レビュー) 中国審査、11/6 & 11/8、於・パレ・デ・ナシオン
  - ； 11/6 のみ、山下が参加
  - ； 3 月に、AACGCJ (1,674 words) をはじめ、いくつかの意見書を提出済み
- ・ 大阪における国連人種差別撤廃委員会 (CERD) 派遣報告、12/2、於・茨木神社
  - ； 山下、山本、藤木が参加
- ・ 国連人種差別撤廃委員会 (CERD) 韓国審査 (12/3 ~12/4)、於・パレ・ウィルソン
  - ； 日程が合わず、誰もジュネーブに派遣できず
  - ； 2 本の NGO 報告書を提出
    - －AACGCJ 「国際人種差別撤廃条約 (ICERD) 違反の親日反民族行為者財産の国家帰属に関する特別法」、4 pages
    - －JNCRD 「第 17 回~第 19 回韓国政府報告書に関する包括的な NGO レポート」、26 pages
  - ； 北朝鮮による拉致被害を除き、国連の場で、日本が初めて被害者として登場=画期的 !!

- ・イスラエル日本学会 (IAJS) の国際シンポジウム『明治維新から 150 周年』(12/18 ~ 12/20) におけるプレゼンテーション、山下と田中英道 (iRICH ゲスト・フェロー) が参加、於・テル・アヴィーヴ大学
  - ；山下の学会報告＝「日本の人種差別撤廃提案 100 周年—日本のパイオニア的な活動を通じて近現代史の真実を見据える」、12/20、約 25 分
    - ➔ GHQ 史観を完全に覆す内容

## 2019 年

- ・国連児童の権利委員会 (CRC) 日本審査、1/16 ~ 1/17、於・パレ・ウィルソン
  - ；山本が参加
  - ；JNCRC の包括的 NGO レポートおよび 4 本の個別 NGO レポートを提出
  - ；2018 年 2 月に、プレ・セッション開催済み ➔ CRC 委員と NGO の会合ナシ
- ・日本の人種差別撤廃提案 100 周年記念国民集会、2/13、於・憲政記念館
- ・国連人権理事会 (UNHRC) 第 40 回 定例会合、2/25 ~ 3/22 (4 週間)
  - ；藤木が参加
  - ；いわゆる「徴用工」に関する NGO 意見書提出(松木)
  - ；90 秒のショート・スピーチ
    - 徴用工問題と康 京和 韓国外相のハイレベル・セグメントにおける発言 (2/25)への反論、3/8 by 藤木、Item 3、文案＝藤木、山下
    - 北朝鮮代表の発言 (2/28) に対する反論、3/13 by 藤木、Item 5、文案＝山下、藤木  
テーマ＝徴用工、慰安婦、拉致問題、朝鮮学校の無償化、北朝鮮における全般的な人権問題
  - \*辻 清人 外務大臣政務官が、2/26、ハイレベル・セグメントにおけるスピーチの最後に、日本の人種差別撤廃提案 100 周年について、少し触れてくれた
- ・1/10 に出た国連人種差別撤廃委員会 (CERD) 韓国審査 (2018 年 12 月) の総括見解 (主査＝ゲイ・マックドゥーガル) に、われわれの意見が全く反映されていないので、CERD 委員長とマックドゥーガル宛てに公開質問状を出状(山下)、3/3、711 words
  - ；CERD 韓国審査には、NGO レポートは、合計 4 本で、うち 2 本は、われわれのものであったが、主査がマックドゥーガルだったということもあったかもしれないが、われわれの意見が反映されなかった

- ・国際歴史論戦研究所 (iRICH) の記者会見、3/29、於・日本記者クラブ
  - ；iRICH の活動方針と活動内容に関する紹介
  
- ・国連強制疾走委員会 (CED) に対する反論文の提出(山下)、4/30
  - ；11/16 付け CED 総括所見には、慰安婦の子供の強制疾走の例があるかもしれないという
    - ことで、日本政府はその例を調査するとともに、責任者を処罰せよとの無体な内容
      - ➡ 内容が余りにも酷いので、反論文を提出
  - ；2019年2月下旬の国連人権理事会定例会合の再、韓国代表団が、この CED 総括所見を引用したので、iRICH としても放っていけないということで、反論文を出すことにした
  - ；宛先=国連人権高等弁務官事務所 (OHCHR) CED 事務局 (cc ライナー・フーレ副委員長)
  - ；この CED 総括所見については、外務省も、CED 代表団長の岡村善文の名で、11/30 付けの抗議文を、CED 委員長に対して送付(かなり異例の措置)
  
- ・国連人権理事会 (UNHRC) 第 41 回 定例会合、6/24 ~ 7/12 (3 週間)
  - ；山本、藤木、松木を派遣
  - ；UNHRC 本会議では、3 つの意見書を提出
    - －徴用工 by 李 宇衍
    - －徴用工 by 松木
    - －言論の自由 (国連特別報告者デイヴィッド・ケイに対する反論) by 藤木
  - ；UNHRC で、2 つのショート・スピーチ (90 秒)
    - －徴用工 by 李 宇衍、7/2、Item 3
    - －徴用工 by 松木、7/3、Item 5
  - ；NGO サイド・イベント (シンポジウム) 『日本における戦時朝鮮人労働者に何が起こったのか?—軍艦島の真実』の主催、7/2 午後、於・第 15 会議室 (パレ・デ・ナシオン)
    - (登壇者およびスタッフ)
    - 李 宇衍、落星臺<sup>ナクソンデ</sup>経済研究所研究委員 (ソウル)
    - 坂本道徳、NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会・理事長
    - 松木國俊、iRICH 上席研究員
    - 藤木俊一 (モデレーター)
    - 山本優美子 (進行 & オーガナイザー)
  
- ・友好団体の「新しい歴史教科書をつくる会」(Japan Society for History Textbook, JSHT)

が、国連協議資格 NGO ステイタス (NGO Consultative Status of the UN Economic and Social Council) 正式を取得、8/2

・落星臺経済研究所暴行事件に関する声明、8/5、iRICH の HP に掲載

・国連人権理事会 派遣団報告会、8/6、参議院議員会館 第 101 会議室